



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2016年度 No.3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC賞授賞のご報告
- ◆HCGシンポジウム2016開催のご報告
- ◆2017年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2017 (第16回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HPB)
- ◆研究会活性事例 (WIT)

HC賞授賞のご報告

庶務幹事
湯浅将英 (湘南工大)

平成28年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、平成28年12月8日のHCGシンポジウム2016会場 (於: 高知市文化プラザかるぼーと) にて開催され、受賞者には賞状と副賞のクリスタル盾が贈られました。HC賞は過去1年間に開催された第1種研究会 (HGS, HIP, MVE, WIT) における技術研究報告を対象に、各専門研究委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。例年50件に1件の基準で選考しており、ヒューマンコミュニケーショングループが授与する賞のなかで、最も権威が高い賞と言えます。

本年度は、(1) 自閉症モデルであるマーモセットによる互恵的と非互恵的交渉の認識実験、(2) 輻輳眼球運動の有無に依存しない物体奥行き運動に対する脳活動の計測、(3) 電気刺激を用いたバーチャル食感提示手法、(4) 汎用コミュニケーションエイドVCAN/3Aのログデータを用いた利用者の評価、に関する4件の発表が受賞しました。

それぞれコミュニケーションの研究領域に対して、様々な切り口から明らかにしようとする魅力的な研究となっており、着眼点や得られた結果の興味深さ、各分野への発展性などの観点から評価されています。賞一覧につきましては下記URLよりご覧いただけます。原稿もあわせてぜひご覧ください。
<http://www.hcg-ieice.org/2017/01/18/平成28年度ヒューマンコミュニケーション賞/>

HCGシンポジウム2016開催のご報告

企画幹事
新井田統 (KDDI総合研究所)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催のHCGシンポジウム2016は、高知市文化プラザかるぼーとにて2016年12月7日 (水)～9日 (金) の日程で開催されました。21セッションで105件の発表件数があり、参加者数は198名と、昨年度よりもやや少ない開催規模となったものの、例年通りの盛り上がりを見せました。

2013年から始まった、全ての口頭発表者にインタラクティブセッションの発表枠が付与される仕組みは今年度も引き続き行われ、非常に活発な議論が行われ

れました。ポスターによる発表に加えて、実際に体験できる発表が増加しており、体験とフィードバックの文字通りインタラクティブな関係の中でディスカッションが行われていました。二日間のインタラクティブセッションのそれぞれに対して、参加者の投票により決定されるインタラクティブセッション賞 (最優秀、優秀、学生優秀) が贈られました。

同じく2013年より始まったオーガナイズドセッションが今年も行われ、「ソーシャル・イメージング」「雰囲気工学」「G空間IoT ×行動変容」「メディア・エクスペリエンスとバーチャル環境基礎」と4件が企画されました。7セッションで35件と、全体の発表件数の3割に上る発表があり、テーマを絞って異なる分野の研究者が議論を行うこの企画も、HCGシンポジウムの欠かせない企画の一つとなってきました。優秀な発表に対しては、各セッションでオーガナイズドセッション賞が贈られました。

大会二日目には、HC賞の授賞式と招待講演、および企画セッション「HCGのありかた」が行われました。HC賞は2015年10月～2016年9月にHCGの第1種研究会で発表されたうち、優秀であると評価された研究4件に贈られました。招待講演では、高知工科大学の名誉教授である島村和典先生をお迎えし、「日本の工学の顕彰を目指して—IEEE Milestone推奨活動」と題して講演が行われました。顕彰された様々な工学技術の開発現場における当時の状況、裏話も含めて分かりやすくお話し頂きました。企画セッションでは、領域横断の活動を続けるHCGが、今後更に活発な活動をしていくために必要とされることについて、フロアからの意見を基に議論しました。様々な立場の人からの意見を頂き、今後の活動を考える上で重要な議論の場になったと思います。

今回のシンポジウム2017は、2017年12月13日 (水)～15日 (金) の日程で、石川県金沢市の金沢歌劇座にて行われる予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

2017年総合大会開催のご案内

企画幹事
吉田寛 (NTT)

2017年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は愛知県名古屋市にある名城大学において開催されます。

会場: 名城大学
 会期: 2017年 3月22日 (水)～25日 (土)

最新情報につきましては下記をご覧ください。
<http://www.ieice-taikai.jp/jpn/>

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む5ソサイエティ1グループが一堂に会して開催されます。今年の総合大会では、3月24日 (金) に、プレナリーセッションが開催されます。本セッションでは、まずオープニングセッションとして、電子情報通信学会会長の佐藤 健一氏による講演「電子情報通信産業と学会の次の100年に向けて」が開催されます。その後、学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式に続き、「進化し続けるモビリティの技術動向と産官学連携での研究開発」として、トヨタ自動車株式会社の畔柳 滋氏の講演がごさいます。また「日本の大型基幹ロケットの現状と将来」として、三菱重工株式会社二村 幸基氏の講演がごさいます。

また、総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても50件の企画セッションが提案されております。HCG関連では、「教育改革

を成功させるために」(ヒューマンコミュニケーショングループ/大会委員会企画)の企画セッションが予定されております。

- ・教育改革を推進するための高大連携？(3月23日(木))
オーガナイザ：小粥 幹夫

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2017(第16回情報科学フォーラム)投稿のご案内

企画幹事
吉田寛(NTT)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)、情報・システムソサイエティ、及び情報処理学会が共催するFIT2017(第16回情報科学技術フォーラム)をご案内申し上げます。今回は東京大学 本郷キャンパス(東京都文京区)において開催されます。

会期：2017年 9月12日(火)～14日(木)
会場：東京大学 本郷キャンパス
2017年4月下旬より一般論文および賞対象論文 申込受付開始を予定しております。
最新の情報は下記のURLをご参照ください。
<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2017/>

本フォーラムは、2つの学会の大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式に捉われずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。皆様のご研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

HC特集号投稿のご案内

HC特集号編集委員長
武川直樹(東京電機大)

これまで、「ヒューマンコミュニケーション」論文特集号(以下「HC 特集号」と表す)はテンポラリの編集委員会として論文誌編集を行ってきました。論文特集号の戦略的な取り組み、編集方針の継続的検討が重要と考えられることから、このたび常設の編集委員会として運営いたします。狙いは、以下の通りです。

- ① 一貫性、継続性がある査読・編集が行われることによって、HC 特集号掲載論文の面白さ、クオリティ、革新性、影響力を向上させる。
- ② HCG として組織的にHC 特集号の査読プロセスに関わる者(特に若手研究者)の査読・編集スキルを向上させ、多くの者が査読プロセスに参画できる枠組みを構築する。
- ③ HCG 外の者がHC 特集号の査読プロセスに参画できるようにすることで周辺コミュニティのHCG への取り込みと融合を図り、HCG シンポジウムと併せてHCGを国内のHC 研究および関連研究の中核的コミュニティへと発展するための基盤とする。

当面の活動内容は以下を考えております。

- (A) 編集委員会の定例開催
- (B) HC 特集号の企画と運営
- (C) 編集委員ならびに査読委員の候補者の情報管理
- (D) 編集委員ならびに査読委員(候補者も含む)向けチュートリアル企画・実施

(E) 論文執筆者向けチュートリアル企画・実施

今後、取り組み状況につきましてはその都度ご報告いたします。

- ヒューマンコミュニケーション特集(和文論文誌D)論文募集 -
～伸縮自在のコミュニケーション～

ヒューマンコミュニケーション特集編集委員会

情報通信技術(ICT)の進歩によって、私たちの生活の利便性は向上する一方、生活の多様化、複雑化に伴いプラスの側面ばかりとは限りません。技術の進化は私たちの一人一人の生活を変えると同時に、他者とのかかわりや生活環境とのかかわりも変えていきます。ヒューマンコミュニケーショングループでは、このような状況のもと人が技術・社会・環境と相互に豊かに関わるためのコミュニケーションの研究を横断的に議論する必要性から、HCGシンポジウムを毎年開催し、会員の交流の場を提供して参りました。さらにHCGシンポジウムの成果、および関連する分野の研究成果を論文として広く情報発信するため、平成16年から隔年で、平成25年からは毎年、和文論文誌のA、D、あるいは英文論文誌のいずれかで特集号を発行しています。独自の論文誌を有していないヒューマンコミュニケーショングループの会員にとって本特集は、日頃の研究成果を発表する絶好の機会となっております。同時に、研究分野として深い関連性を有する基礎・境界ソサイエティ、情報・システムソサイエティの会員にとっては、有益な情報提供の場となっていると思います。

ヒューマンコミュニケーショングループの発展にとって、このような活動を今後も継続・拡大していく意義は大きいと思います。本学会の基礎・境界ソサイエティ、情報・システムソサイエティとの連携を強化するとともに、心理学、社会学、文化人類学、言語学などHCGに参画いただく、多くの研究者に投稿いただける特集号となるよう、和文論文誌D「ヒューマンコミュニケーション」特集号(平成30年2月号)を企画します。本特集では、人間の知覚、認知、メディア処理、人工現実感などを用いた情報環境構築のための基礎技術、及びそれらの応用技術までの幅広い分野からの論文を募集します。ヒューマンコミュニケーションの視点から様々な技術を統一的に俯瞰することで、価値ある生活環境構築を実現するための議論となることを期待します。幅広い分野からの多数の方々のご投稿を期待します。

1. 対象分野

ヒューマンコミュニケーション基礎
ヒューマン情報処理
マルチメディア
仮想環境基礎
福祉情報工学
発達障害支援
ヒューマンプロープ
情報の認知と行動
ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
食メディア
その他ヒューマンコミュニケーション全般

2. 論文の執筆と取扱い

通常の一般論文と同一とします。原則として、論文は刷り上がり8ページ以内、レターは刷り上がり2ページ以内とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は4ページです。標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますのでご注意ください。また、2014年4月1日受付分より、早期公開の対象となっております。詳細は和文論文誌投稿のしおり http://www.ieice.org/jpn/shiori/iss_mokuji.html を御参照下さい。査読後

の再提出期間（通常は60日間）が短縮される場合があること、また、採録論文数が多い場合には、一般論文として掲載される場合があることを予めご了承ください。

3. 投稿方法

投稿は、本会電子投稿システム
< https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx >
による電子投稿（PDF ファイル）のみと致します。印刷物及びメールでの投稿は受けません。なお、上記Webでの登録の際、“ソサイエティ/特集”は“[特集 HA] ヒューマンコミュニケーション”を選択して下さい。
“[一般JD]情報・システム”や他の特集を選択されませんようご注意ください。
また、WEB上で著作権譲渡手続きを進めて下さい。投稿手続きについて御不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

【学会事務局連絡先】

一般社団法人電子情報通信学会 編集出版部論文課

E-mail: wabun-d@ieice.org

4. 投稿締切

平成29年4月28日（金） 厳守
※採録通知後7営業日以内に早期公開となりますので、特許申請が関係する場合はご注意ください。

5. 特集号編集委員会

委員長 武川直樹（東京電機大学）
副委員長 小森政嗣（大阪電気通信大学）
幹事 高梨克也（京都大学）、竹内勇剛（静岡大学）、近藤一晃（京都大学）
委員 新井田統（KDDI総合研究所）、安藤英由樹（大阪大学）、繁樹博昭（高知工科大学）、森田ひろみ（筑波大学）、石井亮（NTT）、高嶋和毅（東北大学）、藤原健（大阪経済大学）、寺田和憲（岐阜大学）、松田昌史（NTT）、雨宮智浩（NTT）、井野秀一（産業技術総合研究所）、草野孔希（NTT）、井手一郎（名古屋大学）、宮崎慎也（中京大学）、塙大（名古屋市立大学）、石井雅博（札幌市立大学）

6. 問い合わせ先

武川直樹（東京電機大学）
E-mail: mukawa@mail.dendai.ac.jp

7. 付記

- ・締切日を厳守してください。
12月のHCGシンポジウム2016会場では、平成29年5月末日投稿締切、平成30年3月発行予定というご案内をしましたが1ヶ月前倒しとさせていただきますので、ご了解をいただきますようお願いいたします。
- ・論文採録の場合には掲載料が必要となりますので、あらかじめご了承ください。
- ・投稿に際して、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、受け付けませんこととなりますのでご注意ください。入会の案内はこちらをご覧ください。
<<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>>

研究会活動紹介（HPB）

HPB委員長

伊藤 昌毅（東京大）

ヒューマンプロブ研究会（HPB）は、2009年より活動を続けている第2種研究会です。近年、センサ技術やMEMSの発達により、人が携帯したり装着できるセンサデバイスが普及し、スマートフォンの普及などとともに「人がセンサを持ち歩く」ことが当たり前な時代になりました。ソーシャルメディアへの発信から人の解釈を経た情報を取得することも可能になっています。本研究会では、人が持ち歩く情報機器を活用し環境や自分自身を計測するセンシングを“Human Probe（人間による計測）”と名付け、データの収集方法、様々な応用サービス、プライバシーやセンシング活動の促進手法などの研究を分野横断的に進めています。

HPB研究会は、例年2回の研究会を開催しております。2009年7月の東京大での研究会を皮切りに、これまで15回の研究会を開催してきました。近年は、年度前期には合宿形式の研究会を温泉で、後期には卒論のショート発表などを盛り込んだ研究会を首都圏で開催しています。どちらも、当該分野の萌芽的な研究を中心に研究発表を募り議論するとともに、分野の第一人者を招待講演者として招き、先端的な研究事例をその詳細や裏側まで含めて議論しています。特に合宿では、ナイトセッションと称して現在進行中の研究や直面している問題などについて情報提供を行い、活発な自由討論を行っています。

2012年11月にMSRAのDr. Xing Xieらを招き主催したシンポジウム「ヒューマンプロブの新たな展開」を開催したほか、2013年に中国無錫にて研究会を開催。2014年にはパリにてワークショップ“International Workshop on Web Intelligence and Smart Sensing”を共催するなど、対外発信や国際的な連携の強化にも力を入れています。2016年2月には、「交通ジオメディアサミット?IT×公共交通 2020年とその先の未来を考える?」と題したシンポジウムを交通事業者やコンテンツプロバイダなどを招いて共催し、今後ITやセンシング技術が大きく影響を与える交通分野の専門家との議論の場を作りました。

ヒューマンプロブを中心とするセンシングが発展することで、様々な場や人の活動がこれまでより高密度、高精度に継続的にデータとして取得されるようになり、サービスを実現する基盤情報として利用出来るようになります。その時、その場に特化した情報サービスが当たり前になるだけでなく、新しい空間体験の創造や、長期的なデータ分析を踏まえた社会問題の解決など多くの可能性が開けるでしょう。特に交通、福祉、農業など従来から確立された技術や方法論を持った分野に情報技術を応用することで、新しい研究領域も拓けてゆきます。本研究会が、こうした分野の研究を議論し発展させられる場になるよう、活動を続けてゆきたいと思っています。

【研究会、こんなことやってます！】

本欄ではHCGの研究会で行われているユニークな取り組みや参考になる取り組みを紹介しています。今回紹介するのは、福祉情報工学研究会（WIT）の取り組みの一つ、開催地地域バランスの配慮です。

WITでは、日本をおよそ6ブロックに分けて、できるだけ様々な地域で研究会を開催しています。各地域の研究者が参加しやすくなるだけでなく、地域の当事者（研究成果を利用する人）の参加も促進することになり、地域生活での特性を考慮した研究開発につながることを期待されます。これまでの開催比率は、関東地域が三分の一程度で残りがその他地域ですが、様々な地域から研究発表があり、開催地域に住む方が参加しています。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2017 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会
員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違い
に、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

(社)電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659